

売木村における燃料供給体制維持の経緯

1. 村内唯一のSSの閉鎖（2014年）

売木村では、「尼宮商店給油所」が、村内唯一のSSとして営業してきたが、2014年に、従業員の高齢化、地下給油タンクの使用期限を理由に、閉鎖の意思を表明した。

2. 住民・行政が主体となったSSの運営維持とタンク使用期限延長（2015年～）

尼宮商店の閉鎖意思を受け、2015年、村内関係者による協議の結果、売木村観光協会及び村民有志による「ガソリンスタンドを残す会」が運営を引き継ぐとともに、村による運営補助、精密油面計の設置によるタンク使用期限の延長により、営業を継続することとなった。

3. SSを取り巻く環境の変化と現状の運営形態の限界

2015年以降、SSは「残す会」により営業が継続され、村民の一定の利用があるものの、販売量は年間330KL程度（重油を除く）で、今後もさらなる人口減少が見通される中、SS単体での自立的な経営は難しく、村からの補助金で運営が維持できている状況となっている。

また、「残す会」スタッフの高齢化やスタッフ不足の顕在化が進み、村の財政も財政力指数は0.11、実質収支比率は▲10.8%と厳しさを増しているなか、延命によるタンク使用期限（2023年）が近づいてきており、現状の運営体制での維持は難しくなっている。

4. 新たな燃料供給体制維持方策の構築（2018年）

こうした現状を踏まえ、売木村では、2018年度に、経済産業省の補助金を活用してSS過疎地対策計画を策定し、以下の方針のもと、SS維持に向けた計画を位置付けた。

- ・地下タンクに代わる、ローコストなタンク（地上タンク）の導入
- ・従業員不足を補うための、周辺販売施設スタッフの兼業・兼務によるSS運営
- ・これらによる、（村からの援助を前提としない、）自立的な運営（ローコスト運営）の実現

売木村に設置したコンテナ型給油所（地上タンク）の概要

1. 施設の概要

【運営団体名】うるぎむらガソリンスタンドを残す会

【給油取扱所名】うるぎ600道の駅前PS（ポータブルステーション）

【タンクの概要】20フィートコンテナ（ハイオクガソリン、レギュラーガソリン、軽油（3油種））と10フィートコンテナ（灯油（1油種））を設置。

2. 地上タンクの寸法

20フィートコンテナの寸法（自動車燃料用）

コンテナ幅	6,058mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

10フィートコンテナの寸法（灯油用）

コンテナ幅	2,991mm
コンテナ奥行き	2,438mm
コンテナ高さ	2,896mm

3. 地上タンクの容量

油種	レギュラーガソリン	ハイオクガソリン	軽油	灯油
容量（L）	9,000	3,500	5,300	8,100

